

(様式1)

教育研究業績書

2022年5月1日

氏名 中澤美弥

研究分野

学位

医師薬学 看護学 療養支援看護学

修士(看護学・目白大学大学院)

研究内容のキーワード

老年看護学・看護管理

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践		
1) 在宅看護支援論	2018年度	多様性のある在宅療養者とその家族のニーズに合わせた支援の方法、退院支援・退院調整の展開の方法について、在宅療養者と家族に対する看護過程の展開についての主に演習を看護学部3年生に対して実施した。
2) 老年看護支援論	2018年度～	老年期を生きる人々がその人らしく生きていく上で欠かせない日常生活行動の支援、治療に必要な支援について、看護援助が必要な高齢者の看護過程について講義と演習を看護学部2年生に対して実施した。
3) 在宅看護学実習	2018年度	訪問看護ステーションでの看護活動を通して地域で生活する在宅療養者とその家族に必要な支援について看護学部3年生に対して指導を行った。
4) 老年看護学実習	2018年度～	疾病や障がいをもつ、治療・療養生活を送る高齢者とその家族がもつ健康問題および強みを包括的に理解するとともに、自分らしく生きていくことへの支援に向けて必要な看護について看護学部3年生に対して指導
5) 成人看護学実習Ⅱ(急性期)	2019年度	急性の状態にある対象の健康障害や手術侵襲による身体・心理的变化を全人的に理解し、回復の促進、生活の再構築に向けた看護実践をするための基礎的能力を修得できるよう看護学部3年生に対して指導した。
6) 看護総合実習	2019年度～	4年間で学んだ看護を統合し自ら選択した看護専門領域での看護ケアの実践を通して、看護の意義と専門性、チーム医療体制の中での看護職の役割と今後の課題が見出せるよう看護学部4年生に対して指導した。
7) 基礎看護実習	2018年度～	健康障害を持ち入院している対象を全人的に理解し、対象のための援助者として働きかけられるよう看護学部1年生に対して指導した。
8) 看護援助実習	2018年度～	対象の健康状態の好転を目指しながら患者と援助関係を築き看護援助の必要性を明らかにし自身の看護実践を振り返り看護者としての課題、看護者としての役割について考えられるよう看護学部2年生に対して指導した。
9) 看護とホスピタリティ	2018年度～	社会生活や看護活動におけるホスピタリティの意義について演習と臨地学習を通して考えられるよう看護学部1年生に対して指導を行った。
10) 看護総合演習	2018年度～	4年間の集大成として、様々な事例の対象者に対する看護援助、保健指導について、個人、チームで考え対象の援助活動について考えられるよう、看護学部4年生に対して指
2. 作成した教科書、教材		
1) 講義用ワークシート形式教材	2018年度～	

2) 看護過程講義用対象事例の作成 3) 老年看護学実習 自己学習ノート	2018年度～ 2021年度～	
3. 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 講演会企画(学生サービス委員) 2) 地域交流(地域交流委員) 3) 学生に対し小児感染症予防指導(看護保健委員) 4) 低学年に対する国家試験対策指導(国家試験対策委員) 5) 看護学部全体の実習運営について(学部実習委員) 6) 高校・高校生対象の広報活動(看護学部広報委員) 7) 学生の就職進学に関する活動(キャリア開発委員)	2018年度・2019年度 2018年度 2018年度・2019年度 2020年度・2021年度 2020年度・2021年度 2022年度～ 2022年度～	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法、ブラックバイトについて ・適正飲酒について ・命について考えよう ・薬物の影響について ・認知症サポーター研修
4. 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 健康長寿埼玉モデル狭山市「おりびい健康マイレージ事業」身体測定会 2) 狭山市柏原地区老人クラブ連合会主催「健康ひろば」健康講話 3) さやま市民大学 実践に役立つ健康づくり講座	2019年度 2018年度 2021年度	「オーラルフレイルを予防して健康寿命を延ばそう」 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援の方法～排泄の介助から～ ・高齢者支援の方法～熱布バックケア 熱いタオルで体を拭こう～

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許等 看護師免許	562160号	
2. 所属学会 1) 日本看護学会 2) 日本看護管理学会 3) 日本看護科学学会 4) 日本看護学教育学会	2006年～ 2018年度～ 2018年度～ 2021年度～	
4. 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 大学病院勤務(小児科；新生児中注治療室) 2) 急性期病院勤務(各科病棟・化学療法室・救急外来・総合外来総合案内) 3) 訪問看護ステーション勤務 4) 介護老人福祉施設勤務	1986年4月～2018年3月 (計26年)	

(様式2)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は発表 年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 潜在看護職が望む復職支援研修に関する検討—研修実施率と受講者の要望度の関係—	単著	2018年	目白大学大学院看護学 研究科 修士論文	看護職の資格を持ち現在就業していない潜在看護職は推定約71万人いるといわれている。潜在看護職の復職は、看護職確保の有効な方策の一つである。47都道府県ナースセンターにて実施している復職支援研修の期待は大きい。研修を実施しているナースセンターと受講した受講生を調査対象とし研修の実態と求められている受講内容を明らかにするため調査した。その結果、受講生は、離職期間が長いほど医療の高度化への対応への懸念から復職に躊躇していることからより高度な看護技術に対する研修を望んでいた。